

青森県におけるキク・バラ生産の現状と課題

寺 田 吉 廣

(青森県農業研究推進センター)

Status Quo and Problems for Production of Chrysanthemums and Roses in Aomori Prefecture

Yoshihiro TERADA

(Aomori Prefectural Agricultural Research Promotion Center)

1 はじめに

青森県は全国でも有数の農畜産物産地としての地位を確保している。花きについては、近年、転作の強化や果樹・野菜等の価格低迷などによる農業所得の減少等から、新たな作目として生産に取り組む農家が増加し、産地形成が進展している。

本県の花き生産の拡大を図るため、本県の代表的な切り花（キク及びバラ）を対象に花き生産・流通の実態と生産者の経営収支を調査した。

2 調査方法

県内の主要産地における花き生産者、農協及び卸売市場を対象に、花き生産の現状及び流通の実態を聞き取り調査をするとともに、切り花（キク及びバラ）の収益性について主産地のキク及びバラ生産者各6名から、平成9年（1997年）の経営収支の聞き取りを実施した。また、得られた経営収支のデータを基礎にしてキクの加温作型（12月出荷）の収益性を検討した。

3 調査結果及び考察

(1) 生産・販売の概要

青森県の花きは近年、転作の増加や野菜、果樹（リンゴ）の価格低迷、農業従事者の高齢化による農作業の軽労化や周年就業志向などによって花きに取り組む生産者が増加している。平成8年には作付面積で264ha、粗生産額は35億

円で昭和60年（1985年）に比較して面積で4.2倍、粗生産額で6倍と拡大した。

このような作付面積の拡大にともない、県産切り花の県内シェアは平成8年では35%となり、特に、出荷盛期の7～10月には50%を超えて生産が伸びてきたことから農協組織を中心とした計画的な生産と出荷が求められている。

さらに、県産品のシェアを高めるためには、上位等級品の供給の増加と出荷期間の長期化が重要である。

(2) 切り花産地の特徴的な動き

急速に拡大する花きの中でも、生産の上位を占める切り花（キク及びバラ）の最近の特徴的な動きは次の2点に集約される。

1) 施設化と大型化・装置化

キクの作付面積に占める施設での作付面積は、平成3年

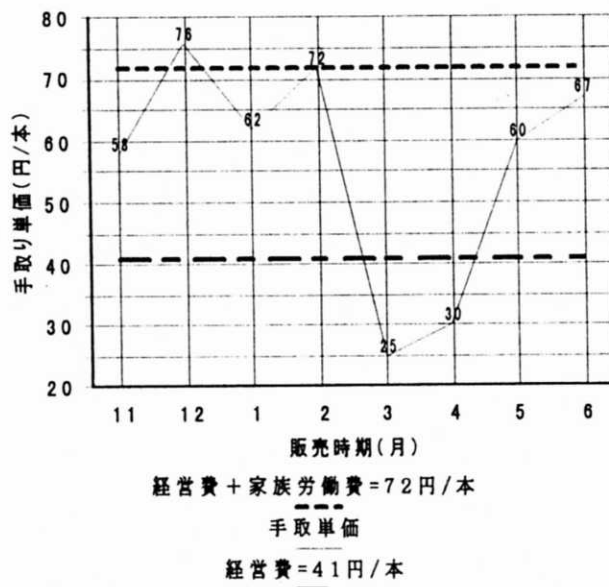


図1 キクの加温作型の収益性（試算）
10a当たり32千本

表1 青森県の花き栽培面積・粗生産額・生産者数の推移
(単位：a, 百万円, 人)

区 分	S.55	S.60	H. 2	H. 5	H. 8
面 積	7,444	6,323	13,179	19,050	26,441
粗生産額	516	581	1,163	2,012	3,482
生産者数	761	560	897	1,185	1,206

注. 県畑作園芸課調べ

表2 青森県におけるキク・バラの作付面積

(単位：a, %)

区 分	H. 3			H. 7			伸び率		
	施 設	露 地	計	施 設	露 地	計	施 設	露 地	計
キ 面 積	1,867	3,405	5,272	3,462	4,205	7,667	185	123	145
割 合	35	65	100	45	55	100			
バ 面 積	276	—	276	679	—	679	246	—	246
ラ									

表3 青森県におけるキク・バラの1戸当たりの作付面積 (単位: a, %)

区 分	H. 3	H. 7	伸び率
キク			
輪ギク	14.7	14.4	98
スプレー系	2.5	4.3	172
小菊	9.7	13.5	139
バラ	9.9	21.9	221

の18.7ha (35%) から平成7年には34.6ha (45%) に増加し、気象条件に左右されにくいハウス等の施設化が急速に進んでいる。

バラは平成2年頃から補助事業を活用した新規参入者により作付面積は一気に拡大した。また、施設については1棟10aが標準で、灌水施設、加温施設、遮光・換気施設など装置化に加えて、養液栽培装置が導入されるなど施設の大型化・装置化が進んでいる。

2) 経営の大規模化・専門化

平成3年のバラの1戸当たり作付面積は10aであったが、平成7年には22aと2倍以上に拡大し、経営の大規模化とこれに伴う専門化が進んでいる。

(3) キクの加温作型の収益性

キク・バラの収益性調査の結果は表4のとおりでキクの所得率は51%となっている。

キクの生産は品質向上のため、露地中心から施設利用へと移行しつつあるほか加温の必要な5～6月及び11月～1月出荷が増加している。

ここで、キクの収益性の調査をもとに、出荷先を青森市中央卸売市場と仮定して、加温作型の採算性を検討したところ、12月出荷では青森県の最低賃金 (579円/時間) 並の

表4 キク・バラの10a当たり収益性 (平成9年)

区 分	キク 平 均 (6戸)	バ ラ 平 均 (6戸)
手取り単価 (円/本)	61	66
粗収益 (円)	1,875	3,801
経営費 (円)	913	3,397
固定費 (円)	405	1,873
変動費 (円)	508	1,524
所 得 (円)	962	404
所得率 (%)	51	11

注. 1) キクの調査対象には露地栽培を含む。

2) バラの調査対象には植付1年度目面積を30～50%含む生産者4戸を含む。

所得が確保できる結果となった。

4 ま と め

最近、本県の切り花は1品目1産地で1億円を超える産地が形成され、生産の大規模化、専門化が進展しているものの、全体としては県内市場供給を主とした零細で多品目・多品種生産に留まっている。

今後の産地の育成・拡大には県外市場をターゲットに消費者ニーズに即した、青森県産ならではの品目・品種の絞り込みが大事である。

また、花き経営が専門化の方向にあることから、施設の効率的な利用や雇用労働力確保と生産者の経営の安定を図るために、個々の生産者の「花き栽培の複合化」の推進が望まれる。また、銘柄確立のために、広域な出荷組織 (市部を含む郡単位程度) の構築と地域の核となる集出荷施設の整備が急がれる。